

文学部歴史学科

歴史学科は、人間の文化的・社会的営為について歴史と文化遺産に関わる専門的領域を考究することを目的として、日本を中心としてひろく世界についてその社会と文化、思想の歴史的展開に関する教育研究を行い、人類の過去と現在、未来に対する洞察力、分析力をもつ人材、さらに歴史的遺産を理解しその継承に資する人材を養成します。

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

歴史学科では、次の能力や学識を身に付けたと認められる学生に対し、学士（歴史学）の学位を授与します。

1. 人間の多様な文化や価値観に対する理解と豊かな教養、汎用的技能を備えている。
2. 国際的な視野から京都をはじめとする地域社会の歴史・文化に対する正しい知識と深い理解を備えている。
3. 歴史学に関する深く幅広い知見を有するとともに、古文書などの史資料や英語・中国語などの外国文献を的確に運用する能力、多様な情報を処理する能力、さまざまな文化遺産を調査・保存・活用する能力を備えている。
4. 社会的・職業的自立を図り、仕事と生活との調和のとれた働き方・生き方を創造するために必要な能力を備えている。
5. 実証的・論理的に論を組み立て、自己の見解を的確に表現する能力を備えている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

歴史学科では、日本史・日本文化史、東洋史・東洋文化史、西洋史・西洋文化史、文化遺産学の4コースを設け、次の方針に基づきカリキュラムを編成します。

1. 教養教育科目の幅広い履修により、学士課程（4年間）を通じて多様な教養と汎用的技能を身につける。
2. 「国際京都学プログラム」の履修を通して、国際的な視野から京都に関するさまざまな文化的現象について考察する。
3. コース共通の必修科目として「基礎演習」（2年次）を履修し、広域的・地域横断的に歴史学という共通の学問方法を修得する。さらに各コースでは、（1）「史料演習」（1～3年次）や「実習」（2～4年次）の履修により、史資料読解のスキル、文化遺産の調査・保存・活用に必要な能力を養う。（2）「概論」（1～2年次）の履修により、当該分野の学問体系の基礎を修得する。（3）「研究」（3～4年次）の履修により、当該分野の最先端の研究成果を学び、先行研究を批判的に検討する能力を養う。（4）「演習」（3～4年次）の履修により、研究課題を自ら発見し、それを学問的に追究し、論理的に表現する能力を養う。なお少人数による双方向型の授業である「史料演習」「実習」「演習」の履修により、主体的に課題を発見し解決する能力を養う。
4. キャリア育成科目の履修を必修とし、自分の働き方・生き方に関する将来像を具体的に構築する能力を養う。
5. 教養科目及び専門科目を通じて学んできたことがらを集大成し、主体的に問題解決に取り組んだ成果として、卒業論文を作成する。卒業論文は中間発表会における合評を経て提出し、日本史、世界史（東洋史・西洋史）、文化遺産学の分野ごとに卒論試問を行い、学科教員全員の合議によって最終評価を行う。

歴史学科のキャリアラムツリー

身につける資質能力	豊かな教養と汎用的技能	キャリアデザイン力	京都の歴史と文化に対する知識と理解	自己の見解を的確に表現する能力	歴史学に関する深い識見と確かな技能		
科目区分	教養教育 (教養基礎・教養総合)	教養教育 (キャリア育成)	専 門 教 育				
			コース共通 国際京都学	卒論	日本史・日本文化史コース		
					講義科目	史料演習科目	演習科目
4回生	教養総合科目	教科専門等科目 教職基礎等科目 教育実習 学芸員資格科目 博物館実習	専攻科目演習 (卒論)	日本史学研究ⅢⅣ 日本文化史研究Ⅲ Ⅳ			日本史演習ⅢⅣ 日本文化史演習ⅢⅣ
3回生	教養総合科目	キャリアデザイン演習 教科専門等科目 教職基礎等科目 介護等体験 学芸員資格科目		日本史学研究ⅠⅡ 日本文化史研究Ⅰ Ⅱ 日本美術史ⅠⅡ			日本史演習ⅠⅡ 日本文化史演習ⅠⅡ
2回生	人権論 日本国憲法 生涯学習論 教養総合科目	英語 第2外国語	ケースメソッド・キャリア演習 教科専門等科目 教職基礎等科目 学芸員資格科目	基礎演習	日本文化史概論 東洋文化史概論 西洋文化史概論	東洋史史料演習Ⅲ 日本古文書史料演習Ⅲ Ⅳ	
1回生	新入生ゼミナール 情報処理基礎演習 スポーツ実習 京都の歴史 現代社会とジェンダー 教養総合科目	英語 第2外国語	キャリア入門講座 教科専門等科目 教職基礎等科目 学芸員資格科目	国際京都学入門	日本史概論 東洋史概論 西洋史概論 文化遺産学概論Ⅰ	日本古文書史料演習Ⅰ 西洋史史料演習Ⅱ	